

おはようございます。

全校集会は年末以来ですから、今年になって初めてということになります。年末年始休みはネットフリックスの『First Love 初恋』というドラマにはまりました。満島ひかりさんと佐藤健さんが主演を務め、1999年から現在までの約20年間で、宇多田ヒカルの歌に乗せながら運命に翻弄される男女を描いたものです。全体で6時間くらいのドラマなのですが、それを2回も見てしまいました。

よくよく考えてみると、こういった恋愛ドラマにはまるのは、私が歳をとっている証拠でもあり、皆さんのような青春時代まっただ中にいる人は、ドラマなんかより現実の恋愛にはまった方が楽しいわけです。たまたま今日はバレンタインデーで、日本では女性から男性にチョコレートを渡す風習がありましたが、最近は誰から誰にというのはあまり関係なくなりました。先ほど話した『初恋』の第1話では、「好きな食べ物は何か？」と聞かれたら、それはあなたを好きだっていう告白なんだというシーンがあります。使える場面があったら使ってみてください。余計なお世話ですね。

『初恋』の話はこれくらいにして、国公立大の2次試験が来週に迫っていますが、4年前の横浜市立大学医学部で興味深い問題が出題されました。まずは問題を紹介します。

「授業の一環で稲刈りの体験作業があり、自分はそれに同伴した指導者であると想定する。農家の高齢の夫婦が、お礼にとおにぎりを握って持ってきてくれたが、生徒は知らない人の握ったおにぎりは食べられないと、たくさん残した。これについてどのように考えるか。また、生徒と老夫婦にどのように話すか。」というものです。

当然ですが、この問題に正解などありません。考えられる評価のポイントとしては、

- (1) 他人の握ったおにぎりは食べられないという生徒に対する人権尊重の考え（多様性の理解）
- (2) その一方で、老夫婦に対する配慮も必要（判断力）
- (3) さらに、言いにくい事を告げる際の技術（表現力）

といった3点でしょうか。

コロナが流行る今、他人の握ったおにぎりを食べられないのは多数派のようにも思いますが、いずれにしても、知らない人の握ったおにぎりをたくさん残してしまった事実を踏まえ、それを頭ごなしに「いけないこと」と叱らずに、まずは食べられない生徒の気持ちに寄り添う必要があります。

そして、2つ目の老夫婦に対する配慮という点では、「今の子供たちは他人が握ったおにぎりは食べられないのです」と直球で返すのはあまりにも気の毒なわけで、老夫婦の気持ちをおもんばかりことができるかどうかは、将来医者になるかに関係なく、人として無くてならない資質といえます。

3つめの、言いにくいことを告げる技術については、人を相手にする職業では特に大切な技術といえます。特に医師であれば、病気を抱える患者さんと向き合う仕事であり、言いにくいことを告げなければならない場面が多々あるわけです。すべてを正直に伝えたとき、それを受け止めることができる相手なのかの見極めも大事になります。時には相手によって言葉を変える必要があるということを理解しているのかが問われています。

先日、首相秘書官が、性的少数者や同性婚の在り方を巡り「隣に住んでいたら嫌だ。見るのも嫌だ。」などと記者団に述べ、結果として更迭されるということがありました。いくらオフレコの会見とはいえ、秘書官という官邸内にいる人間が発言すべきことではありません。成熟した国や社会では多様性が尊重されますが、その意味で日本はまだ未熟な国だなど思います。

2つ目の話題に移ります。すでに報道で知っていると思いますが、改正道路交通法の施行により、4月1日から自転車利用者のヘルメット着用が義務化されます。ただし、罰則のない努力義務ということで、本校としてヘルメット着用を校則にするかどうかは、村山地区内の高校の動きに合わせてたいと考え、情報交換しているところです。

全国に目をやると、たとえば愛媛県ではだいぶ前からすべての高校生がヘルメットを着用しています。これは、愛媛県内で2件の自転車による死亡事故が発生し、保護者からヘルメット着用の声が寄せられ、県が無償で配付するようにしたからだそうです。今では、愛媛県では大人も自転車に乗るときはヘルメットを着用するようになっていると聞きます。

何でも始まりには理由があるものです。先ほど2件の自転車での死亡事故があったと話しましたが、その一人に関する新聞記事を見つけましたので読んでみます。

2014年12月、県立伊予農業高校1年だった大地君は、信号のない横断歩道を渡っていてトラックにはねられた。約20メートル飛ばされ、頭を強打して亡くなった。期末試験を終えて自転車で帰宅中だった。安全確認を怠ったとして、運転手は執行猶予付きの有罪判決を受けた。

事故の翌日は大地君の母の誕生日だった。葬儀の数日後、部屋のクローゼットから折り紙の花束が見つかった。ピンク、緑、黄……。鮮やかな花びらの部分は、大地君が朝早く学校に来て、折り紙を折っていたと、友人から聞いた。茎の部分も手作りだった。

「折り紙博士」。幼稚園の頃そう呼ばれたほど、大地君は幼い頃から手先が器用だった。「誕生日はお花がいいな」とリクエストしていた母へのサプライズ。母は胸に抱きしめて泣いた。

愛媛県では、この事故を教訓に、高校生に限らず大人も自転車に乗るときはヘルメットをかぶるようになったわけです。一度失われた命は、元には戻りません。罰則がないのでいいやと思わず、自分の命を守る手段としてヘルメットを着用してください。一つ3000円程度でカッコいいヘルメットが買えるようです。校則かどうなるかに寄らず、ヘルメットをかぶり、自分の命を守りましょう。

(2023年2月14日 オンライン全校集会)